

ご担当者様

SKIPシティ国際Dシネマ映画祭2019

全ラインナップ発表!! 7/13(土)~21(日)開催!!

★本映画祭のメイン部門「コンペティション」には世界92の国と地域からエントリー!

その中から厳選した国際コンペティション10本、国内コンペティション 長編部門5本、短編部門9本がノミネート! 中野量太監督、上田慎一郎監督、片山慎三監督らに続く新たな才能はここから飛び立つ!!

★特集「トップランナーたちの原点」では、日米4人の世界的巨匠 ルーカス、イーストウッド、ソダーバーグ、三池崇史監督の貴重なデビュー作を一挙上映!!

★幕開けを飾るオープニング作品は、『カメ止め』クリエイター再集結! 浅沼直也監督、上田慎一郎監督、中泉裕矢監督が共同で手掛けた異色のトリプル監督作『イソップの思うツボ』をワールド・プレミア!

平素より大変お世話になっております。

2004年から始まった「SKIPシティ国際Dシネマ映画祭」は、デジタルシネマにフォーカスを当て、国際コンペティション、国内コンペティション(長編部門、短編部門)の二部門3カテゴリーのコンペティション上映を中心にした“若手映像クリエイターの登竜門”として毎年開催を重ね、これまで、『皿待ち』の白石和彌監督、『長いお別れ』の中野量太監督、『カメラを止めるな!』の上田慎一郎監督、『岬の兄妹』の片山慎三監督など、今や日本映画界のトップランナーに飛躍した監督や、新作を心待ちにされる監督たちを多数輩出してきました。



そして来る 7月13日(土)~21日(日)の9日間、本映画祭は 16回目の開催を迎えます。

本日6月7日(金)、都道府県会館(東京・永田町)にて記者発表を行い、国際コンペティション、国内コンペティションのノミネート作品、特集上映をはじめとする全上映ラインナップを発表いたしました。

詳細は下記の通りです。本年も映画の未来を担う、新たな才能の発掘に取り組んでまいります。

ぜひ貴媒体にて本情報をご紹介しますよう、よろしくお願い申し上げます。

特集上映「トップランナーたちの原点」

映画史に名を刻む日米4巨匠の貴重なデビュー作を一挙上映!

今年の特集上映では、ジョージ・ルーカス、クリント・イーストウッド、スティーヴン・ソダーバーグ、三池崇史といった、国内外で高く評価され、映画史に名を刻む 4人の巨匠監督の才気あふれる貴重なデビュー作を上映します! 現在は大作映画を主戦場とする4名も、デビュー当時はインディペンデント映画からそのキャリアをスタートさせ、「若手」「新鋭」と呼ばれた時代がありました。未来の巨匠を発掘すべく“若手映像クリエイターの登竜門”を掲げる本映画祭では、若手監督たちに大きな刺激を与えるであろう4巨匠のデビュー作を特集し、また現在スクリーンで鑑賞できる機会のほとんどない作品を、観客の皆様にお届けします。



©1971 A Warner Bros. Entertainment Inc. All Rights Reserved.
『THX-1138 デイルクターズカット』
監督:ジョージ・ルーカス
<1971年/アメリカ/88分>



©1971 Universal Pictures Co., Inc. All Rights Reserved.
『恐怖のメロディ』
監督:クリント・イーストウッド
<1971年/アメリカ/102分>



©1988 Outlaw Productions. All Rights Reserved.
『セックスと嘘とビデオテープ』
監督:スティーヴン・ソダーバーグ
<1989年/アメリカ/100分>



©1995 KADOKAWA
『新宿黒社会 チャイナ・マフィア戦争』
監督:三池崇史
<1995年/日本/101分>

国際コンペティションには92の国・地域からエントリー！

応募数658本から厳選した、10作品がノミネート。全作品日本初上映！！

キム・ユンソク、タニア・レイモンド、ツヴァ・ノヴォトニー。俳優の監督デビュー作が3作ノミネート！

今年は10作品中5作品が女性監督作品！

16回目にして初！国際コンペに長編アニメーションがノミネート！

今年の「国際コンペティション」には、韓国を代表する演技派俳優、**キム・ユンソクの監督デビュー作となるドラマ『未成年(原題)』**、大ヒットTVシリーズ「LOST」の**タニア・レイモンドがアーティストのジオ・ゼッグラールと共同監督で手掛け、主演も務めた風刺コメディ『バッド・アート』**(インターナショナル・プレミア)、**『ヒトラーに屈しなかった国王』のツヴァ・ノヴォトニーが98分ワンカットに挑んだ監督デビュー作『ブラインド・スポット』**と、俳優が初監督を務めた作品が3本ノミネートとなりました。

その他の作品も、世界の潮流を切り取ったサスペンス**『陰謀のデンマーク』**、**『私の影が消えた日』**や、**『イリーナ』**などの重厚なドラマから、東欧ハンガリーから届いた**『ロケットマンの憂鬱』**のようなブラック・コメディ、クレイアニメと2Dアニメを併用して難民キャンプで暮らすパレスチナ人少女と曾祖父の絆を描いた**『ザ・タワー』**、監督自身の亡命記録をスマートフォンで撮影した渾身のドキュメンタリー**『ミッドナイト・トラベラー』**など、ジャンルも様々な力作揃いのラインナップとなりました。また、**『ザ・タワー』**は本映画祭では16回目にして初となる、国際コンペティションにノミネートした**長編アニメーション作品**となりました。

また日本作品として、立教大学大学院の卒業制作として制作された**『旅愁』**(日中合作、呉 沁遥(ご・しんよう)監督)が唯一ノミネート！**10作品全てが日本初上映**の作品となります。

国際コンペティションの上映作品は会期中に上映・審査され、三池崇史監督を審査委員長とする最終審査会によって、グランプリをはじめとする各賞が選出、最終日7/21(日)のクローリング・セレモニーで表彰・授与されます。

国際コンペティション ノミネート作品



©SHOWBOX
『未成年(原題)』
 監督:キム・ユンソク
 <2019年/韓国/96分>
※ジャパン・プレミア※



©Studio Visit LLC
『バッド・アート』
 監督:タニア・レイモンド、ジオ・ゼッグラール
 <2019年/アメリカ/81分>
※インターナショナル・プレミア※



『ブラインド・スポット』
 監督:ツヴァ・ノヴォトニー
 <2018年/ノルウェー/98分>
※アジアン・プレミア※



©KAF Production
『私の影が消えた日』
 監督:スダーデ・カダン
 <2018年/シリア、レバノン、フランス、カタール/90分>
※ジャパン・プレミア※



『イリーナ』
 監督:ナデジダ・コセバ
 <2018年/ブルガリア/96分>
※ジャパン・プレミア※



『ロケットマンの憂鬱』
 監督:バラージュ・レンジェル
 <2018年/ハンガリー/90分>
※ジャパン・プレミア※



©Hassan Fazili
『ミッドナイト・トラベラー』
 監督:ハサン・ファジリ
 <2019年/アメリカ、カタール、カナダ、イギリス/87分>
※ジャパン・プレミア※



©Henrik Ohsten
『陰謀のデンマーク』
 監督:ウラー・サリム
 <2019年/デンマーク/119分>
※ジャパン・プレミア※



©Jour2Fete
『ザ・タワー』
 監督:マッツ・グルードウ
 <2018年/ノルウェー、フランス、スウェーデン/77分>
※ジャパン・プレミア※



© 旅愁 2019
『旅愁』
 監督:呉 沁遥(ご・しんよう)
 <2019年/日本、中国/90分>
※ワールド・プレミア※

**日本の若手監督たちがしのぎを削る国内コンペティション！
長編部門5作品、短編部門9作品がノミネート！**

日本映画の未来を担う才能の発掘を目的とする「国内コンペティション」。

長編部門は、黒沢清監督や篠崎誠監督の元で研鑽を積み、期待の若手俳優・青木柚らが出演した壺井濯監督『サクリフェイス』や、『空(から)の味』の好演が印象的な笠松七海主演の『おろかもん』、『猟奇的な彼女』を彷彿とさせる暴走ラブ・ストーリー『バカヤロウの背中』、俳優として『アウトレージ』等に出演している真田幹也が監督した『ミドリムシの夢』、昨年の本映画祭国際コンペ短編部門優秀作品賞『予定は未定』の磯部鉄平監督の初長編『ミは未来のミ』といった、今後要注目の才能が顔を揃え、5作品がノミネート！うち4作品がワールド・プレミアで上映！

短編部門では、『ガンバレとかうるせえ』が注目された佐藤快磨監督の『歩けない僕らは』、平凡なサラリーマンと謎の美少女を描く村木雄監督のちょっと不思議なコミカル・ファンタジー『ぜんぶ東京のせいだ』、日中ハーフの女子大生が直面する国籍の選択を題材に描く鯨岡弘識監督の青春ドラマ『メイリンの決めたこと』、本映画祭では3度目のノミネートとなるマキタカズオミ監督が出生前診断に臨む夫婦の葛藤を描く『産むということ』など、エネルギー溢れる若手監督による、ジャンルも作風も様々な9作品がノミネート！そのうち3作品がワールド・プレミア、1作品がジャパン・プレミアでの上映となります。

国内コンペティション(長編部門) ノミネート作品



©2018「ミドリムシの夢」製作委員会

『ミドリムシの夢』

監督:真田幹也

<2019年/日本/86分>

※ワールド・プレミア※



© 八王子日本館

『ミは未来のミ』

監督:磯部鉄平

<2019年/日本/62分>

※ワールド・プレミア※



© 藤本匠

『バカヤロウの背中』

監督:藤本匠

<2019年/日本/67分>



©2019「おろかもん」制作チーム

『おろかもん』

監督:芳賀 俊、鈴木 祥

<2019年/日本/96分>

※ワールド・プレミア※



©2018 立教大学映像身体学科/Récolte & Co.

『サクリフェイス』

監督:壺井 濯

<2019年/日本/76分>

※ワールド・プレミア※

国内コンペティション(短編部門) ノミネート作品



© AOI Pro.

『春』

監督:大森 歩

<2018年/日本/27分>



『JURI』

監督:西条みつし

<2019年/日本/25分>



© What Meaning Decided 2019

『メイリンの決めたこと』

監督:鯨岡弘識

<2019年/日本/24分>

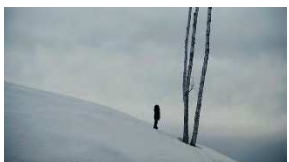


『multiple』

監督:永治ミュキ

<2019年/日本/23分>

※ワールド・プレミア※



© 遠い光製作委員会 2019

『遠い光』

監督:宇津野達哉

<2019年/日本/19分>



© 映画「歩けない僕らは」

『歩けない僕らは』

監督:佐藤快磨

<2018年/日本/37分>

※ジャパン・プレミア※



『スカーフ』

監督:的場政行

<2019年/日本/33分>

※ワールド・プレミア※



『ぜんぶ東京のせいだ』

監督:村木 雄

<2019年/日本/20分>

※ワールド・プレミア※



『産むということ』

監督:マキタカズオミ

<2019年/日本/27分>

映画祭の幕開けを飾るオープニング作品は、浅沼直也監督×上田慎一郎監督×中泉裕矢監督 異例のトリプル監督で制作された話題作『イソップの思うツボ』をワールド・プレミア!

今年のオープニング作品は、**8/16(金) 全国公開となる話題作『イソップの思うツボ』を、劇場公開に先駆けてワールド・プレミアで上映!**

『イソップの思うツボ』は埼玉県/SKIPシティ彩の国ビジュアルプラザによる若手映像クリエイターの支援事業として製作され、過去本映画祭にそれぞれノミネート・受賞経験を持つ上田慎一郎監督(『テイク8』で2016年短編部門奨励賞受賞)、中泉裕矢監督(2018年オープニング作品『君がまた走り出すとき』監督)、浅沼直也監督(『冬が燃えたら』で2017年短編部門最優秀作品賞受賞)が共同監督を務めた作品です。

上田慎一郎監督の初の劇場用長編で、観客動員数220万人以上、興行収入31億を突破した2018年の日本映画界最大の話題作『カメラを止めるな!』では、中泉監督が助監督、浅沼監督がスチール担当として参加しており、本作でもそれぞれの特徴を生かしながら息の合ったコラボレーションを見せています。



©埼玉県/SKIPシティ彩の国ビジュアルプラザ
『イソップの思うツボ』
監督:浅沼直也、上田慎一郎、中泉裕矢
<2019年/日本/87分>

※ワールド・プレミア※

毎年恒例のバリアフリー上映では、社会現象級大ヒット作『カメラを止めるな!』を上映! そのほか「ママ・シアター」「埼玉関連映画上映」など関連企画も盛りだくさん!

SKIPシティ国際Dシネマ映画祭では、コンペティション、特集以外にも多彩なプログラムが盛りだくさん!

毎年恒例の**バリアフリー上映では、昨年の日本映画界最大の話題作! SKIPシティでも撮影された『カメラを止めるな!』を、日本語字幕・音声ガイド(UD Cast方式)で上映!** そのほか関連企画として、授乳施設も完備しベビーカーのまま入場可能な**「ママ・シアター」**では日本に暮らすミャンマー人家族の苦悩を描き高く評価された**『僕の帰る場所』**を上映。

さらに**「埼玉関連映画上映」**では、近年、数々の映画の舞台・撮影地となっている埼玉県で撮影された2作品『とてもゴースト』と『おくれ咲き』を、JR川口駅前の映像・情報メディアセンター「メディアセブン」で上映します。

ほかにもSKIPシティを中心に活動するクリエイターが制作した作品を上映する**「メイド・インSKIPシティ」**では、**短編映画『避雷針』を通常のスクリーンで上映する2D版と、180度円周魚眼レンズで撮影した「ドーム映像版」の2パターンで上映!**

そして毎年恒例、子どもたちが映画やCM制作にチャレンジした作品を上映する**「カメラクレヨン〜子どもたちが作った映画が、いま面白い!〜」**など多数の企画が開催されます!



©ENBU ゼミナール
『カメラを止めるな!』
監督:上田慎一郎
<2017年/日本/96分>

【バリアフリー上映】

※日本語字幕・音声ガイド/UD Cast方式上映※



©E.X.N K.K.
『僕の帰る場所』
監督:藤元明緒
<2017年/日本、ミャンマー/98分>

【関連企画「ママ・シアター」で上映】



©埼玉県/SKIPシティ彩の国ビジュアルプラザ
『避雷針』
監督:中村貴一朗
<2019年/日本/23分>

【関連企画「メイド・インSKIPシティ」で上映】



©Japanese Musical Cinema / Human Design Inc.
『とてもゴースト』
監督:角川裕明
<2019年/日本/105分>

【関連企画「埼玉関連映画上映」で上映】



『おくれ咲き』
監督:島 春迦
<2018年/日本/96分>

【関連企画「埼玉関連映画上映」で上映】

主催者、国際コンペティション・国内コンペティション各審査委員長ほかコメント

記者発表では、主催者の上田清司実行委員会会長(埼玉県知事)、奥ノ木信夫実行委員会副会長(川口市長)、八木信忠総合プロデューサー、土川勉ディレクター、三池崇史 国際コンペティション審査委員長、荻上直子 国内コンペティション審査委員長、オープニング作品『イソップの思うツボ』の浅沼直也監督、上田慎一郎監督、中泉裕矢監督の計9名が登壇し、映画祭開催への期待と意気込みを語りました。コメントは以下のとおりです。

○上田 清司 (実行委員会会長/埼玉県知事)

Dシネマ映画祭をはじめて16年目となるが、大変素晴らしい若手の監督が次から次に誕生していることに誇りと自信を持っている。その一つが今年のオープニングで上映する『イソップの思うツボ』だ。共同で監督を務めたのは、昨年「社会現象」とも言える大ヒットとなった『カメラを止めるな!』を監督した上田慎一郎さん、助監督の中泉裕矢さん、スチールの浅沼直也さんの三人だ。それぞれ素晴らしい個性をどんなかたちで見せてくれるか楽しみにしている。これからも素晴らしい監督がSKIPシティを通じてどんどん世界へ出ていくことを期待している。是非、『イソップの思うツボ』ならぬ「SKIPシティの思うツボ」にはまってほしい。

○奥ノ木 信夫 (実行委員会副会長/川口市長)

今年の審査委員長は、第72回カンヌ映画祭監督週間に新作『初恋』が選出された三池崇史監督、『かもめ食堂』の荻上直子監督と、著名なお二方にお引き受けいただき感謝申し上げます。昨年は記録的猛暑の中、前年を上回る動員となり、大変感謝している。今年も、多くの方々をお迎えできるよう、JR川口駅から会場までの無料バスに加え、埼玉高速鉄道「鳩ヶ谷駅」から会場までの無料バスを、土日祝日に運行することとした。ご来場いただきやすい環境を作っている。本映画祭の成功、そして映像関連産業の振興と映像文化発展のため特段のご支援を賜りたい。

○八木 信忠 (映画祭総合プロデューサー)

17年前SKIPシティが誕生したとき、デジタルシネマにフォーカスした映画祭を行うことになった。当時は、今日あるようなデジタルシネマの普及を誰も考えていなかった。それが今ではデジタルシネマが主流の時代となった。デジタルシネマの先駆者として続けてきたこの映画祭では、世界に通用する画質と音響設備で上映している。ぜひ楽しんでいただきたい。

○三池 崇史 (国際コンペティション審査委員長/映画監督)

職業として映画を出したのが30年前。Dシネマができる更に15年前。その時のことを思い出す。こういう映画祭がもっと日本に沢山あったら面白い展開があったかもしれない。映画祭とは、そこを目標に作っているわけではないが、多くの人に観てもらえる機会がある場。自分で目の前で作っていたものが、いきなり違う場所に連れてってもらえて扉を開けてもらえる。監督たちがこの映画祭に出してよかったと思えるように盛り上げていきたい。

○荻上 直子 (国内コンペティション審査委員長/映画監督)

20年前から映画を撮ってきたが、今回依頼されて改めて自分は新人じゃないんだと感じた。フレッシュで勢いのある新人監督の作品を楽しみにしている。

○土川 勉 (映画祭ディレクター)

昨年のコンペで併せて4作品が一般公開となった。優秀賞と観客賞を受賞した片山慎三監督『岬の兄妹』や、パブロ・ソラルス監督の国際コンペでの観客賞を受賞した『家へ帰ろう』もスマッシュヒットし、多くの人に観ていただき、高い評価を受けた。映画祭で上映した作品が一般公開され評価を受けるのは運営する側としては嬉しいこと。作品が育ち、監督が育っていくための支援をしていくのも映画祭の役割ではないかと思う。

○浅沼 直也 (オープニング作品『イソップの思うツボ』監督)

構想3年、監督3人、ヒロイン3人、3という数字に導かれた作品。この3人の出会いは2012年のSKIPシティ映画祭。出会いの場を提供してもらえた映画祭でもある。友情を育みながら、喧嘩をしながら作った楽しい作品になっている。

○上田 慎一郎 (オープニング作品『イソップの思うツボ』監督)

7年前、バイトをしながら貯金を切り崩して自主映画を撮っていた。初めて大きな映画祭にノミネートして上映してもらえたのがSKIPシティ映画祭。公開を予定しているわけでもない映画が初めて自分の知らない人に届いた時だった。同じ短編部門に浅沼さんがいて、長編部門に中泉さんがいて出会った。7年たって共同で作品撮るとは夢にも思わなかった。好きな映画とか作家性も全然違う3人の色が3色混ざり合って、いびつさもいい魅力になった「イソップの思うツボ」お楽しみに。

○中泉 裕矢 (オープニング作品『イソップの思うツボ』監督)

2012年に初めて作った作品を上映してもらった映画祭。今年は、自分の作品によく出演してもらっていた村木雄という俳優が、監督として短編部門に入っていて、非常に嬉しく他人事ではないと感じた。

SKIP シティ国際 D シネマ映画祭 2019（第 16 回）開催概要

- 会期：2019年7月13日（土）～7月21日（日） <9日間>
- 会場：SKIP シティ（埼玉県川口市）
- 内容：国際コンペティション、国内コンペティション、特集上映、関連企画、イベント等
- 主催：埼玉県、川口市、SKIP シティ国際映画祭実行委員会、特定非営利活動法人さいたま映像ボランティアの会
- 公式サイト：www.skipcity-def.jp

★本映画祭の上映作品の画像、プレス資料などの素材については、下記よりダウンロードいただけます。

<http://urx.space/QAIT>

★作品画像、テキスト資料、映画祭メインビジュアル、ロゴ、プレスリリースなどの素材は、【Image.net】でもご提供しております。

<https://www.image.net>

<お問合せ>

SKIP シティ国際 D シネマ映画祭事務局 堀切

MOBILE: 090-4228-2342 TEL: 048-263-0818 E-Mail: horikiri.skipcity@gmail.com